

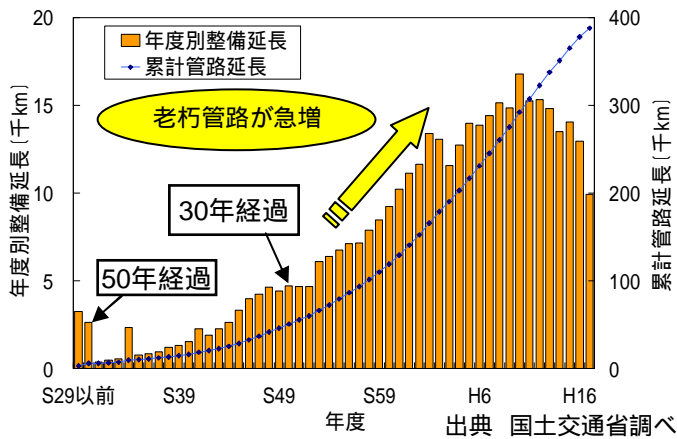
下水道ストックの増大

現状と課題

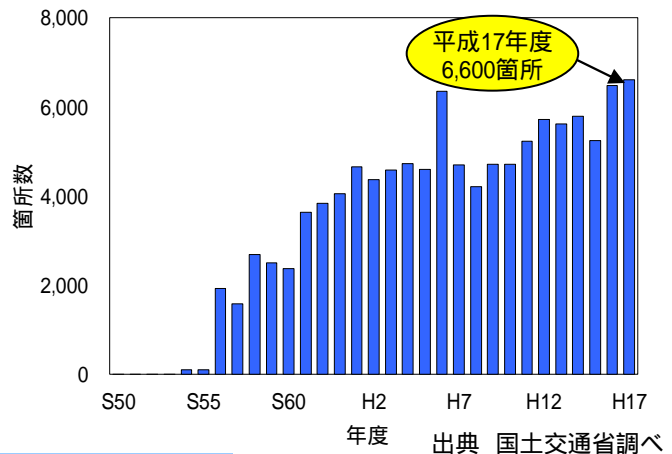
これまで整備した下水道施設の投資額は80兆円以上、管路延長は約38万km、処理場数は約2,000箇所など下水道ストックが増大しています。老朽化等を放置すれば、処理機能の停止によるトイレ使用の制限、未処理下水の流出、管路破損による道路陥没など日常生活や社会経済活動に重大な影響を与えることが懸念されます。

現在、事故発生対応型の維持管理が主流となっており、今後、施設の維持管理費・改築更新費の増大・集中化が見込まれる中、計画・建設・維持管理を総合的にとらえた上で、施設の延命化、投資の平準化等を考慮した施設管理が急務となっています。

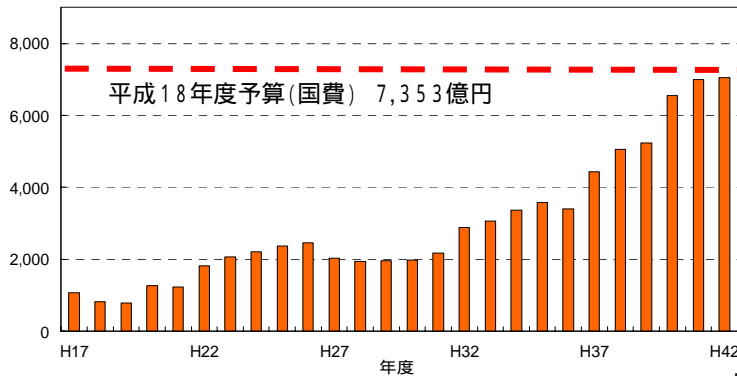
年度別管路整備延長(全国)



下水道起因の道路陥没件数の推移



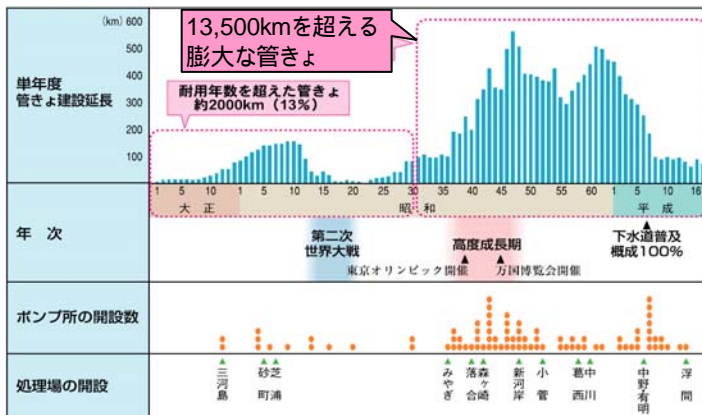
今後の改築更新費の推計



推計方法)
標準耐用年数を経過した施設を改築更新するためには、同施設に対する過去の投資額を現在価値化した費用が、改築更新費用として生じると仮定して推計。

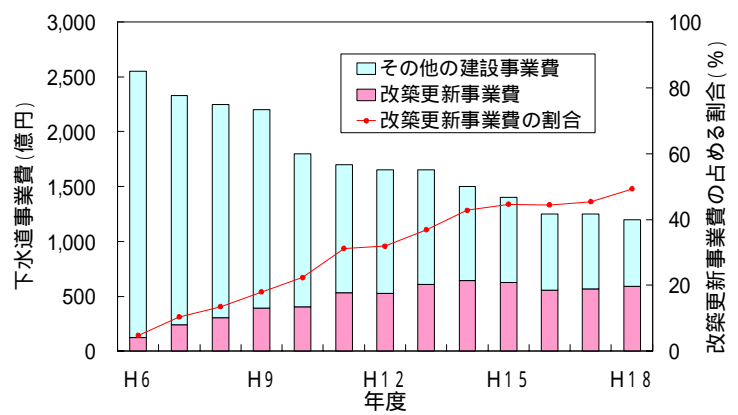
出典 国土交通省調べ

東京都の下水道施設の整備状況



出典 東京都

東京都の建設事業費と改築更新費の推移



出典 東京都